

1 豊かな表現力の育成～伝え合う力を高める指導の研究～

2 研究の内容

東山梨地区日本語教育研究部会では、小学校・中学校の二部会に分かれての研究体制をとっている。最近の生徒達の実態を踏まえ、このテーマを設定し研究を進めてきた。現代社会の変化に伴い、生徒を取り巻く人間関係も希薄になってきている。自分自身の気持ちを表現する力や、相手の気持ちを理解する力の乏しさが気になる場面も多い。その力こそが「伝え合う力」であり、円滑な人間関係を築くための力として、その育成が求められている。「伝え合う力」を高めるためには、語彙力、想像力はもちろん、他人を思いやる心、感動する心などの豊かな人間性とも関わってくる。そのなかでも「言葉」によって表現する力・「言葉」をもとに理解する力こそが、国語科で扱う「伝え合う力」であると考えた。授業の中で「書く」「話す」場をたくさん用意すること、また伝えられたことを受け止めること、そして受け止めた事柄、考えを判断し、自分の考えをまとめ深める力へとつなげていきたい。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を統合した力として育てていくことがこの「伝え合う力」の育成であると考え、いろいろな方向から「伝え合う力」の育成を目指したいと授業作り、実践を行っている。

今年度は、二本の特色ある授業実践を通してテーマに迫ることができた。また授業案の検討に時間をかけて丁寧に行う中でお互いに学びを深めることができた。それぞれ「読むこと・書くこと・話すこと・聞くこと」を一つ絞るのではなく総合的に上手く絡み合わせながら幅広い方向から「伝えあい」という部分を学習させることができた。来年度に向けては講師を招いての理論研究および基礎学習や新学習指導要領・年間指導計画の作成についても学習していく機会を作っていくことができれば、さらに学習が深めることができるという反省も挙げられた。

3 今年度 授業実践の成果と課題

①山梨北中学校 鮎沢智美先生の実践 「新聞の特徴を生かして書こう」より

成果と課題

山梨北中学校では1年時より新聞ノートの作成や NIE 授業など国語科のみならず社会科や技術科また総合学習を通じて新聞に毎日触れることができた。そのまとめの活動ともいえる新聞を作成する授業を今回行った。まず1、2年時の発表記事で振り返りを行い、書くことへの意欲を持たせることができたので今までの継続して行ってきたことが十分に利用・活用することができた。その後、同じテーマのグループ毎に書いた文章を互いに読

み合い、論理の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに、ものの見方や考え方を深めることを目的に意見交換を通して独自の視点を持たせ、「新聞の特徴を生かして書こう」に取り組んだ。今回の授業ではグループ毎に意見交換をする時間の授業実践を公開した。授業の中では子供たちと指導者の距離がとても近く、指導者の評価が暖かく適切で子供たちも発言をしやすい雰囲気を感じることができた。新聞というものに3年間触れてきたことで積み上げてきたものの大きさを感じることができる授業であった。また指導者の発問やアドバイスの中で一つの見方だけでなく違う視点を与えることにより子供たちの視野を広げることができた。お互いの作品を真剣に聞くことができ、その中で気づきや心を動かされる場面が多く見られることができてよかった。多くの労力が必要だが意見交流をもとに考えを深めるためにはとても良い授業であった。

グループの人数により話し合いに時間がかかってしまう部分も見られたので、グループは3人くらいが適当だと思われる。自分の考えや体験と題材が合った生徒は、とても良い作文がかけたが事実しか書けない題材のものは自分の思いを伝えるのが大変だった。何かを伝えるには題材選びも大切な要素であると感じることができた授業であった。

②勝沼中 依田久幸先生の実践 「モアイは語る～地球の未来～」 より

成果と課題

本題材では同一教科書会社の同名の教材文に関して読書教材として扱われている平成17年度版と説明文として扱われている平成18年度版を見比べることで説明文の特徴をとらえることを目標にした授業実践である。本授業は前時において行った説明文の特徴を踏まえ、二つの文章を読み比べ、「文章の構成」・「問題提起のわかりやすさ」・「見出しの有無」といった部分に着目し、どちらが説明文教材かを考えると同時に、その理由に関しても考え、発表する授業実践を行った。授業の中では前時で学習した説明文の特徴を元に「尾活型」という言葉や、指導者が予め予想していた生徒から出される回答が生徒から積極的に発表され、説明文の特徴を良く理解している様子を見ることができた。またお互いに意見交換をすることで発表の仕方や考え方を確認することもできた。発表の中でも「声の大きさ」・「スピード」・「語尾の発言の仕方」など基本的な発表の仕方の指導を大切に日常的に行っている様子を見ることができた。自分の意見を発表し、他の友達の意見を元に気づき、直すという過程があり自分の意見を伝えるという作業過程がよかった。発表に使う言葉のレベルが高く普段からの言葉の指導の様子を窺うことができた。さらに生徒の細かい発言をよく拾いながら、教師主導にならずに生徒が参加する形の授業を行うことができた。また、生徒も聞く時と話し合いのメリハリがしっかりできていて静と動の使い分けがしっかりできていた。

伝え合う力を高めるといふ部分で言えば、班の中での話し合い活動の中で「それはどうして?」「納得いかない」というやりとりがあってもよかったので、発表の仕方や班の活動の指導を充実させていくことによりお互いの意見交換もさらに深まっていくであろうと思われる。

(部長 武井善史)